

使徒聖パウロフィリッピ人に贈りし書簡

冒頭

第一章 イエズス、キリストの僕たるパウロ及びチモテオ、総て
フィリッピに於てキリスト、イエズスに在る聖徒、並に監督及
び執事等に「書簡を贈る」。二 願はくは我父にて在す神及び主イ
エズス、キリストより、恩寵と平安とを汝等に賜はらん事を。三
我汝等を想起す毎に、我神に感謝し、四 凡ての祈禱に於て常に
汝等一同の為に喜びて懇願し奉る。五 蓋汝等最初の日より今
に至る迄、キリストの福音の為に協力したれば、六 汝等の中に
善業を肇め給ひし者の、キリスト、イエズスの日まで、之を全う
し給はん事を信頼せり。七 汝等一同に就きて我が斯く思へるは
至當の事なり、其は汝等我心に在り、又我が縲綽の中に在るに
も、福音を弁護して之を固むるにも、汝等皆我と共に恩寵に與
ればなり。八 蓋我が、キリストの腸を以て、如何許り汝等一同
を戀慕ふかは、神我為に之を證し給ふ。九 我が祈る所は、即ち汝
等の愛が益、智識と凡ての悟とに富み、一〇 汝等が一層善き事を
弁へて、キリストの日に至るまで潔く科なくして、一 イエズス、
キリストによりて、神の光榮と讚美との為に、善の好果に満た
されん事是なり。

第一項 パウロ自身の音信

一 二兄弟等よ、我汝等の知らん事を欲す、我身に關する事柄は、
却て福音の裨益と成るに至りしことを。三 即ち我が縲綽に遇
へる事のキリストの爲なるは、近衛兵の全營にも何處にも明に
知られたり。四 斯て兄弟中の多數は、我縲綽の故に主を頼み
奉りて、一層憚らず神の御言を語るに至れり。五 實は猜と争
との為にキリストを言ぶる者もあれど、好意を以てする者もあ
り、一六 又福音を守護せん為に我が置かれたるを知りて、愛情よ
りする人もあれば、一七 眞心を有たず、縲綽に於る我困難を増さ
ん事を思ひ、党派心よりキリストの事を説く者もあり。一八 然り
とて何かあらん、如何様にもあれ、或は口實としてなりとも、或
は眞心を以てなりとも、キリスト宣傳せられ給へば、我は之を喜
ぶ、「以後も」復喜ばん。一九 其は我汝等の祈とイエズス、キリ
ストの靈の助力とによりて、此事の我救となるべきを知ればな
り。二〇 是我が待てる所、希望せる所に叶へり、即ち我何に於て
も耻づる事なかるべく、却て何時も然ある如く、今も亦活きて
も死しても、キリストは安全に我身に於て崇められ給ふべきな
り。二一 蓋我に取りて、活くるはキリストなり、死ぬるは益な
り。二三 若肉身に於て活くる事が我に事業の好果あるべくば、其
孰を擇むべきかは我之を示さず、二四 我は双方に挟まれり、立去
りてキリストと共に在らん事を望む、是我に取りて最も善き事
なり、二四 然れど我が肉身に留る事は、汝等の為に尚必要なり。

二五 斯く確信するが故に、我は汝等の信仰の進歩と喜悅とを來さん為に、汝等一同と共に留り、且逗留すべき事を知る。二六 我再び汝等に至らば、キリスト、イエスに於て、我に就きて汝等の誇る所は彌増すべし。

第二項 實用的勸告

二七 汝等は唯キリストの福音に相應しく生活せよ、是我が或は至りて汝等を見る時も、或は離れて汝等の事を聞く時も、汝等が同一の精神、同一の心を以て立てる事と、福音の信仰の為に一致して戦ふ事と、二八 聊も敵に驚かされざる事とを知らん為なり。此驚かされざる事こそ、敵には亡滅の徴、汝等には救霊の徴にして、神より出づるものなれ。二九 其は汝等キリストの賜はりたるは、唯之を信する事のみならず、又之が為に苦しむ事なればなり。三〇 汝等の遇へる戦は、曾て我に於て見し所、又我に就きて聞きし所に等しきものなり。

第二章 若幾許のキリストに於る勸、幾許の愛に由る慰、幾許の聖靈の交、幾許の憫の賜あらば、二 汝等我喜を満たせよ。即ち心を同じし、愛を同じし、同心同意にして、三 何事も党派心、虚栄心の為にせず、謙遜して互に人を己に優れる者と思ひ、四 各己が事のみを顧みずして他人の事を顧みよ。五 汝等志す事はキリスト、イエスの如くなれ、六 即ち彼は神の貌に在して神と並ぶ事を盗とは思ひ給はざりしも、七 己を無きものとして

奴隷の貌を取り、人に似たる物と成り、外貌に於て人の如くに見え、八 自ら謙りて、死、而も十字架上の死に至るまで、從へる者となり給ひしなり。九 是故に神も亦之を最上に挙げて、賜ふに一切の名に優れる名を以てし給へり、一〇 即ちイエスの御名に對しては、天上のもの、地上のもの、地獄のもの、悉く膝を屈むべく、二 又凡ての舌は父にて在す神の光榮の為に、イエス、キリストの主に在せる事を公言すべし。三 然れば我至愛なる者よ、汝等が常に從ひし如く、我面前に在る時のみならず、今不在の時に當りても、一層懼慄きつつ己が救霊を全うせよ、三 其は志す事と為遂ぐる事とは、神が御好意を以て汝等の中に為さしめ給ふ所なればなり。四 汝等咳く事なく争ふ事なく、一切の事を行へ、五 是汝等が悪く且 邪なる代に在りて、咎むべき所なく、神の純粹なる子兒として、科なき者とならん為なり。汝等は斯る人々の間に、世界に於る星の如く光りて、六 生命の言を保てり、斯て我が走りし事の空しからず、勞せし事の空しからずして、キリストの日に於て我名譽と成るべし。一七 假令汝等の信仰の供物と祭との上に、我が一血は一濯がるるも、我は之を喜びて汝等一同と共に之を祝す、一八 汝等も之を喜びて我と共に祝賀せよ。

第三項 パウロ、フィリッピに遣さんとする人々を賞賛す

一九 我も汝等の事を知りて心を安んぜん為、速にチモテオを汝等に遣はさん事を、主イエズスに於て希望す。二〇 其は斯くまで我と同心して、眞心を以て汝等の為に慮る人、復外に在らざればなり。二一 蓋人は皆イエズス、キリストの事を求めず、己が事を求む、三と雖も、彼が福音の為に、子の父に於る如く我と共に努めたるは、汝等が其證を知れる所なり。二三 然れば我身上の成行を見れば、直に彼を汝等に遣はさん事を期せり。二四 我自らも亦程なく汝等に至るべき事を、主に於て信頼す。二五 然れども我思ふに、汝等より遣はされて我が要する所を供せし我兄弟にして協力者たり戦友たるエパフロチトを汝等に遣はさざるべからず。二六 蓋彼は汝等一同を戀慕ひ、其病める由の汝等に聞えしとて憂ひ居たりしなり。二七 實に彼は病に罹りて、死ぬべかりに成りたれど、神は彼を憫み給ひ、啻に彼のみならず、我悲の上に又悲の重らざる様、我をも憫み給へり。二八 此故に彼を見る事によりて、更に汝等を言はせ、我憂をも滅せん為に、一層早く彼を遣はせるなり。二九 然れば汝等主に於て厚く彼を歓迎し、鄭重に斯る人物を待遇せよ。三〇 其は彼 我を扶けて汝等の缺けたる所を補はんと、キリストの事業の為に生命を投じて死を犯したればなり。

第四項 偽教師に用心して完徳に進むべし

第三章 其外我兄弟等よ、汝等主に於て喜べ、繰返して同じ事を書遣るも、我は厭く事なくして而も汝等に益あり。二 汝等彼犬等に用心し、惡き働人に用心し、偽の割禮に用心せよ。三 蓋靈によりて神を禮拜し、肉身を頼まずして、キリスト、イエズスに誇れる我等こそ割禮なれ。四 然れど我は肉身にも頼む事を得、他人若肉身に頼むを得とせば、我は尚更の事なり。五 我は八日目割禮を受けて、イスラエルの裔、ベンヤミンの族、ヘブレオ人よりのヘブレオ人、律法に對してはファリサイ人、六 奮發に就きては神の教會を迫害せし者、律法によれる義に就きては科なく生活せし者なり。七 然るに我益となりし是等の事を、我はキリストに對して損なりと認めたり。八 而も我主イエズス、キリストを識るの超越せる學識に對しては、一切の事皆損なるを思ふ。我キリストの為に一切の損失を蒙りしかど、之を視る事糞土の如し。是キリストを贏け奉らん為にして、九 又律法によれる我義を有せず、キリスト、イエズスに於る信仰よりの義、即ち信仰によりて神より出づる義を有しつつ、キリストに於て認められん為、一〇 キリストを識り、キリストの復活の能力を識り、キリストの死に象れる者となり、其苦に與らん為、一一 如何にもして死者の中より復活するに至らん為なり。一二 斯く言へばとて我既に達する事を得、或は完全に成りたるには非ず、唯我キリスト、イエズスに捕へられたれば、如何にもして之を捕へ奉らんと

追求するのみ。二三兄弟等よ、我捕へたりと思はず、努むる所は唯一、即ち背後の事を忘れて前面の事に向ひ、四神がイエスをキリストによりて上に召し給へる所の褒美を得んとて、目的を追求するのみ。五然て完全と成る「に進む」我等は、志す事皆斯の如くなるべし。汝等若何等かの異議あらば、神は之をも汝等に示し給はん。一六但既に至れる所よりして、我等は進むべきなり。一七兄弟等よ、我を學べ、又汝等が我等を型とせる如くに歩める人々に注目せよ。一八蓋我屢、汝等に言へる如く、今尚泣きつつ言ふ、キリストの十字架の敵として歩む人多く、一其終は亡なり、彼等は腹を其神と爲し、耻づべき事を誇りとし、世の事をのみ味ふ。二〇然れども我等の國籍は天に在りて、我等は我主イエス、キリストの救主として天より來り給ふを待つなり。二一彼は能く萬物を己に服せしむるを得給ふ能力を以て、我等が卑しき體を變せしめ、己が榮光の體に象らしめ給ふべし。

第五項 種々の勧告及び感謝

第四章一然れば我至愛にして、最懐しき兄弟等よ、我喜我冠なる至愛の者よ、主に於て斯の如く立て、二我エヴォヂアにも勧め、シンチケにも勧む、主に於て心を同じうせん事を。三軛を共にする忠實なる友よ、我汝にも、是等の婦を扶けん事を希ふ。彼等はクレメンスト、生命の書に名を記されたる他の我助力者

と共に、我に伴ひて福音の為に働きしなり。四汝等常に主に於て喜べ。我は重て言ふ喜べ。五汝等の温良なる事、凡ての人に知れよかし、主は近く在すなり。六何事をも思ひ煩ふ勿れ、唯萬事に就きて祈祷と懇願と感謝とによりて、汝等の願は、神に知られよかし、七斯て一切の智識に優れる神の平安は、キリスト、イエスに於て汝等の心と思とを守るべし。八其外兄弟等よ、総て眞なる事、総て尊ぶべき事、総て正しき事、総て潔き事、総て愛らしき事、総て好評ある事、如何なる徳も、規律の如何なる誉も、汝等之を慮れ。九汝等我に就きて學びし事、受けし事、聞きし事、見し事は之を行へ、斯て平和の神汝等と共に在さん。

末文

一〇汝等が我身上を思ふ心の、終に復芽したる事を、我主に於て甚喜べり。汝等は素より我を思ひ居たれど、機會を得ざりしなり。二我は缺乏によりて之を言ふに非ず、其は有るが儘にて事足れりとするは、我が學びたる所なればなり。三我は卑しめらるる事を知り、又豊なる事をも、知れり。一々萬事につけて飽く事をも創る事をも、豊なる事をも、缺乏を凌事をも修行せり。三我を強め給ふ者に於て、一切の事我が為し得ざるはなし。四然りながら汝等は、寔に善く我困難を扶けたり。一五

フィリッピ人よ、汝等も知れり、我が福音を傳ふる初、マケドニアを出發せし時には、何れの教會も授受の風を以て我に交らず、汝等のみ之を為して、一六一度も二度もテサロニケに餓りて我用に供したりき。一七我贈物を求むるには非ず、唯汝等の利益と成る好果の豊ならん事を求むるなり。一八我には何事も備はりて餘あり、汝等が贈りし物の其香馨しく、神の御意に適ひて嘉納せらるる犠牲を、エパフロチトより受けて飽足れり。一九我神は己が富によりて、光榮の中に汝等の要する所を悉くキリスト、イエズスに於て満たし給ふべし。二〇願はくは我父にて在す神に世々光榮あらんことを、アメン。二一キリスト、イエズスに在る聖徒の各に宜しく傳へよ。二二我と共に在る兄弟等汝等に宜しくと言へり。凡ての聖徒殊にセザルの家に属する人々、汝等に宜しくと言へり。二三願はくは我主イエズス、キリストの恩寵、汝等の靈と共に在らん事を、アメン。